



# 三瀧周辺の悪水抜き 新川開削

西蒲原郡一帯を囲む、信濃川・中ノ口川・西川は、「天井川」とも呼ばれる川です。天井川とは、周囲の土地より川底が高い川を言います。こうした低湿地帯の中で人々は、水との共存の中で生活をしていました。度々起こる水害にも悩まされていました。

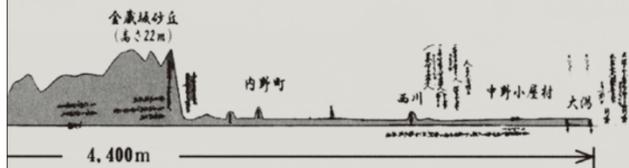
中でも大瀧・田瀧・鍛湯の「三瀧」と呼ばれる瀧の周辺が最も低い土地でした。こうした三瀧周辺の低湿地帯の悪水

## 大小無数の瀧が存在する西蒲原郡

西蒲原郡には、大小無数の瀧が存在し、人々はこうした瀧から得られる産物を副収入として暮らしを支えていました。新川ができたことにより、多くの瀧が新田開発された為、消滅していきましたが、それでもいくつかの瀧が残りました。

新潟の「瀧」とは、一般的には湖沼に分類されます。それを越後人は「瀧」と呼びました。また瀧を意味する「泻」は新潟の方言文字として使われました。

今日でも、地名に「瀧」が付くように、当時瀧が存在していたことを伺い知ることができ、越後人にとって瀧は身近な存在であったといえます。



## 地元ガイドおすすめのお店



## まち歩きの注意事項

- 町には多くの方が住んでおられます。大声で話をしたり、道路に広がりすぎて、住民・車の通行の迷惑にならないようご配慮願います。
- どこから車が出てくるかわかりません。周囲にも注意を向け、交通事故に遭わないようお気をつけ願います。
- 思い出を残すため、写真撮影はご自由どうぞ。ただし、住民プライバシーには十分ご配慮願います。

まち歩き  
ガイドの  
申し込み

TEL 025-264-7623 FAX 025-269-1660  
MAIL nosei.w@city.niigata.lg.jp

担当 / 新潟市西区役所 農政商工課 (受付時間 / 平日8:30~17:30)  
〒950-2097 新潟市西区寺尾東3-14-41

【編集・発行】 内野まち歩きガイドの会  
【協力】 新潟市(西区役所 農政商工課)

第4版 / 2026年2月

完成直後の西川水路橋



# 内野町 まち歩き ガイドマップ

UCHINOMACHI GUIDE MAP

内野は、江戸時代は純粋な農村でしたが、江戸時代後期に新川開削工事が行われると、それに伴って多くの労働者が集まるようになりました。また、村には、桶屋、味噌屋、鍛冶屋、料理屋、酒屋などの職人も居住し、次第に大きな町を形成して行き、江戸後期には都市機能を持つ「在郷町」として栄えるようになりました。



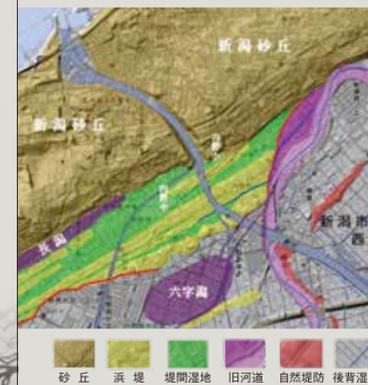
十返舎一九『滑稽雑加羅寿』より  
新潟県立文書館蔵を模写 (細貝 美貴雄氏)

抜き(排水)を行うために掘削計画を立て、開削請願から約八十年後、二年の歳月をかけて人々の手によって掘削が開削されました。

開削には約二万六千両の経費、工事に携わった人々延べ二六五万人の苦勞により、一八二〇年に開通、新川と呼ばれるようになりました。

この新川開削の歴史と文化、技術は、後世に誇る、伝えたい大工事です。

## 内野町と周辺の地形

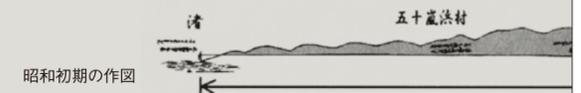


内野町の主な地形は、「砂丘」と「浜堤(ひんてい)」といった砂でできた地形と、河川でできた地形「旧河道」と「自然堤防」に分けられます。内野駅より北側の内野小学校・内野山手・五十嵐地区などは、「砂丘」と呼ばれる地形です。

砂丘とは、砂浜の砂が風によって運ばれ堆積した丘です。浜堤とは砂浜の砂が波によって運ばれ、体積した丘です。

## 砂丘を切り開く金蔵坂の難工事

新川開削工事では、日本海へ放水するためには高さ22mの金蔵坂を人の手によって切り開く必要がありました。この金蔵坂の難工事を経て日本海へ通水することができ、新川開通によって西蒲原郡では新田開発が進みました。



昭和初期の作図

# 内野町 まち歩き ガイドマップ

UCHINOMACHI GUIDE MAP

まち歩きモデルコース  
 約2.9km  
 約3.5km  
 撮影ポイント  
 100m 50

※マップ上のコースは当日の天候、参加人数等により変更する場合があります。



## 13 遠藤実 顕彰碑

国民栄誉賞を受賞した遠藤実は、多感な少年期を内野で過ごし、内野の風土・自然から音楽的感性を磨き、数々の名曲を残しました。その顕彰碑が内野駅前であり、渚橋脇には遠藤実が建立した海山地蔵菩薩があります。

ボタンを押すと音楽を楽しめます

## 12 酒造(樋木酒造・塩川酒造)

樋木酒造の銘柄は「鶴の友」で、酒蔵は登録有形文化財に登録されています。塩川酒造の銘柄は「越の関」「願人」「COWBOY YAMAHAI」です。かつて他に浜倉酒造と伊藤酒造があり、内野には4つの酒蔵がありました。

やしち酒店でお買い求めできます

## 11 内野大神宮(上・下)

内野には二つの大神宮があります。いずれも江戸時代後期の文化年間に創建されたと言われています。両社とも祭神は天照大神です。明治以降、内野は一体感を持つようになり、住民は二つの大神宮があることに誇りを持っています。

内野大神宮(上)では7月末の土又は日曜に盆踊りが行われます

## 10 三日月橋

旧北陸道(北国街道)の橋で、かつては往来橋と呼ばれていました。1878年の北陸巡幸で明治天皇が橋の上から新川の投網漁をご覧になられました。

北側を見ると「金蔵坂」を望めます  
写真提供：加藤 功

## 9 静田神社

祭神は、神武天皇。1888年に創建され、1899年に社殿が再建され現在に至っています。神社裏の丘は、新川開削前は吉田稲荷神社のある丘とつながっていました。

川に挟まれた川の守り神  
写真提供：加藤 功

## 8 吉田稲荷神社

祭神は、宇迦魂命。内野上組庄屋の吉田善三郎が、1867年に京都の吉田家から「吉田稲荷神社」の社号を受け、屋敷裏に建てたのを起源としています。

赤い鳥居がたくさん並んでいるのが目印

## 6 新川・西川 立体交差

新川と西川が立体交差する所です。1820年に西川の下に木製の底樋を入れ新川を通水したことから始まります。1909年に鉄筋コンクリート造の新川暗闇となり、1954年に現在の鋼造トラス橋となりました。

今も暮らしを支える2つの川が交差しています

## 7 蓮久寺

日蓮宗、伊藤山蓮久寺、1652年に角田浜の妙光寺22世日達を迎えて創建しました。新川開削工事の立役者の伊藤五郎左衛門ゆかりの寺です。

新川開削の偉業を讃えています

## 5 金比羅神社

祭神は大物主命。内野下組庄屋の渡部家が建てたものです。この神社は西川の方を向いていることから、西川の舟運を見守るために建てられたものと思われます。

毎日屋根にハトがいます

## 1 清徳寺

真宗大谷派、北畑山清徳寺。本堂脇には、戊辰戦争で活躍した内野出身の農民義勇兵「精義隊」をたたえ、1870年に建立された「義勇碑」があります。

内野の歴史を見守ってきた寺

## 2 いちよう公園

内野下組の庄屋であった渡部家の屋敷跡です。1878年の明治天皇北陸巡幸では、明治天皇がご休憩されました。園内に土方元元揮毫の石碑が建てられています。

公園周辺もかつて渡部家の屋敷地

## 3 西川

古くは信濃川の主流で、江戸時代中期頃まで「西信濃川」と呼ばれていました。かつては舟運の交通路として使われ、西蒲原郡地域一帯の灌漑用水としての役割を持つ川です。

ソメイヨシノとシキザクラを見ることができます

## 4 宝光院

曹洞宗、慧日山宝光院。1896年に起きた「横田切れ」の大水害の痕跡が本堂内に残っています。この水害を機に、大津津分水路の建設への声が高まりました。

宝光院では「考える柱」と呼んでいます